

漁業地域再生プロジェクト トピックス

“海と生きる” 連続水産セミナーで講演しました



気仙沼市・東京海洋大学連携事業「“海と生きる” 連続水産セミナー シーズン4」が始まりました。第1回は12月9日に開かれ、「国内外比較から見た我が国産地漁港・魚市場における情報通信技術の活用の可能性」と題して講義を行いました。漁協職員・買受人・加工組合関係者ら40名を超える方が参加されました。

人口減少・高齢化、そして震災復興。ICTを活用して産地漁港・魚市場の機能を高める可能性と方策について講義。

気仙沼漁港・魚市場～2004年からOCR機を導入し入札ふだを読み取り落札者を決定

第一売場入札室



正確に読み取れているか確認



入札状況を見ながら、入札終了し、落札者決定



OCR用紙を読取機に入れる



販売情報



落札情報



漁業種別平均単価

漁港・魚市場がICT活用で変わります

東日本大震災からの復興を契機に、岩手・宮城の拠点漁港は、高度衛生管理型漁港・魚市場へ整備されるとともに、その市場取引はICTを活用して効率化と鮮度保持に踏み出しています。

商品情報は、紙ベースから電子媒体へ電子化され、場内はオンライン化！対EU・米輸出～資源管理を目的としたトレーサビリティの下地がつくられつつあります。

大船渡漁港・魚市場における自動計量（IoT）と市場取引の電子化

タブレット搭載・スケール付きフォークリフト



あらかじめタンクを計量することで漁獲物を入れるときに実重量を自動計量

漁獲物の実重量
タブレットを操作し、RFIDタグから読み取ったタンクNo.とフォークリフトスケールによる実重量を結び付け、サーバーへ送信



RFIDタグ（タンクのID情報を埋め込んだICタグ）タンクの前後1か所ずつ貼付



【10月調査】

市場職員が計量、商品情報をタブレットから入力

買受人がタブレットで入札販売、商品情報を見ながら下見

市場職員がタブレットで落札者、商品を確認

入船予定

入札販売

入札結果

入札室

中央監視・管理室

入札コントロール（開始から発表）

入札結果の発表

花き市場では1990年代から電子せりが導入されています。買参人は、クロックの付いた表示盤を見て端末から入力してせりに参加します。電子せりを可能にしているのは、早期に商品情報を入手することができるからです。



(株)大田花き（11月撮影）

【漁業地域再生プロジェクト担当 問合せ先】

中泉 昌光（特任教授）
品川キャンパス 1号館 213号
Tel：03-5463-0793
e-mail：nakaiO@kaiyodai.ac.jp